

イベント

フォトニュース

凡例 日時 場所・会場 対象 内容 講師 定員 費用 申込方法 持ち物 問い合わせ先 HP ホームページ 検索 ページ番号 検索 FAX ファクス メール 託児あり 主催 共催 注意事項

並木図書館・もとまち図書館 ワークショップ1日図書館員

3月①28日(火)②29日(水)9:30~12:00
①並木図書館②もとまち図書館

図書館員の仕事を体験して、図書館をもっと身近に感じてみませんか。
 市内在住の小学生以上※保護者の同伴可 定各6人※先着順
 3月16日(木)9:30から、氏名(ふりがな)・学年・電話番号・保護者の氏名を電話または直接各図書館へ
 →並木図書館 ☎(042) 321-9972
 もとまち図書館 ☎(042) 325-4222

恋ヶ窪図書館 春休み子ども映画会

3月24日(金)14:00~15:00
恋ヶ窪公民館※当日直接会場へ

「ぼくのだ! わたしのよ!」(原作=レオ・レオニ) (5分)
 「はなさかじいさん」(にほんのむかしばなし) (7分)
 「カレンダーはにちようび」(原作=寺村輝夫) (20分)
 →恋ヶ窪図書館 ☎(042) 324-1927

地域の防火防災功労賞 優良賞を受賞



防災まちづくり推進地区の戸倉自治会東地区防災会(第11号地区)は、コロナ禍における地域防災力の向上を目指した取組が評価され、東京消防庁より優良賞が授与されました。

cocobunjiプラザ主催事業

新しい企画や課題を考える
参加型ワークショップ
ローカルテーブル

3月のテーマ
ゆるく紡ぐ人とのつながり
国分寺コットンクラブ

3月31日(金)19:00~21:00
 カフェローカル(cocobunji WEST5階)
 市内で栽培しているコットンから生まれた、人と人とのつながりを聞き、これからのコットンの可能性を一緒に考えましょう。
 講 吉田直美さん(国分寺コットンクラブ代表)
 定 30人※先着順
 申 3月16日(木)から電話で同プラザ総合案内 ☎(042) 325-6330へ
 問 同プラザ総合案内

市民福祉講座 世界自閉症啓発デー・発達障害啓発週間イベント

発達障害のある人の自立 育ちの過程での生きづらさやつまづきを知る

4月8日(土)13:00~15:00 ①市障害者センター②オンライン

発達障害の基礎的な理解、発達障害のある人の心の育ちに関して、その人らしさと自立をテーマに精神科医師が話します。
 講 田中哲さん(子どもと家族のメンタルクリニックやまねこ院長)
 定 ①20人②30人※先着順 ②通信料は自己負担
 申 3月16日(木)10:00~4月7日(金)17:00に、参加者名・メールアドレス・電話番号を(社福)万葉の里HP <https://www.manyounosato.or.jp/info>または FAX(042) 321-1207で地域活動支援センターつばさへ
 催 地域活動支援センターつばさ
 注 手話通訳あり/参加時の配慮が必要な方は、ご相談ください/後日、期間限定でYouTube配信を予定※要申込/詳しくは万葉の里HPをご覧ください
 →障害福祉課(内521)

国分寺障害者施設お仕事ネットワーク

春のスイーツ&ハンドメイドフェア

3月17日(金)~19日(日) 10:00~18:00
ミーツ国分寺4階催事場

新型コロナウイルス感染症の影響で、仕事の受注や販売機会が減少している障害者施設に販売機会を提供するため、地域活性化包括連携協定を結んでいる(株)三越伊勢丹の協力で販売会を行います。
 障害のある方が製造したクッキー(110円~)、シフォンケーキ(200円)、ファッション小物・食器類(440円~)、手作りクラフト品(350円~)などの販売
 国分寺障害者施設お仕事ネットワーク代表(ともしび工房内) ☎(042) 324-7071
 →障害福祉課(内523)

中学生の「税についての作文」「税の標語」入賞者発表

次代を担う中学生に税への関心と理解を深めてもらうことを目的としているコンクール・募集で、市内の中学生が入賞しました。
→教育総務課 ☎(042) 574-4040

- ### 「税についての作文」入賞者
- 立川税務署長賞 熊坂桜さん(二中)
 - 都税事務所長賞 宮居紗椰香さん(三中)
 - 国分寺市長賞 成川心晴さん(四中)
 - 国分寺市教育委員会 教育長賞 徳丸白華さん(三中)
 - 東京納税貯蓄組合総連合会 会長賞 田中知花さん(一中)
 - 秋元澄名さん(四中)
 - 松橋劉人さん(五中)
 - 多摩納税貯蓄組合連合会 優秀賞 内田椎千香さん(一中)
- ### 「税の標語」入賞者
- 国分寺市長賞 伊藤香帆さん(三中)
 - 立川間税会会長賞 檜崎大叶さん(三中)

国分寺市長賞受賞作文

一本の電話からつながる未来 四中 成川心晴

「もうばあちゃんの弁当は頼んでくれんよかよ。じいちゃんと一緒に、デイサービスに行くことになったけん。心配せんでよか。」

突然、九州のおじいちゃんから電話がきた。

五年前、おじいちゃんが脳梗塞で倒れ、左半身麻痺となる。デイサービスを利用しながら自宅介護が始まった。自宅介護。それは、高齢のおばあちゃんには大変なことだった。

いつも電話で、明るく話してくれたおばあちゃんが、この日は暗かったので聞いてみた。するとおばあちゃんは「最近きついとよ」と。

私は家族に提案し、少しでもおばあちゃんが楽になるように、お弁当を届けるサービスを利用した。喜んでくれていたとばかり思っていたのに、お弁当を取り忘れる日が増え、横になってばかりになり、認知症と診断されデイサービスを利用するようになる。

デイサービスのことが気になり、住んでいる市役所の高齢福祉課に、話を聞きに行った。

介護保険のしくみ、サービス利用の手順、介護保険サービス、介護に関わる支援総合事業など、とても詳しく教えてもらった。

あまりにも情報が多く、知らない言葉ばかりが並び、頭の中は混乱状態。その中で、衝撃的に記憶に残った内容がある。それは、介護保険サービスを利用する私のおばあちゃんは、一割負担だということ。

「えっ。負担は一割でいいの。」

週三回デイサービスを利用しているおばあちゃんには、施設で昼食や入浴もしている。活動の時間に得意の書道をやった日には、電話から聞こえる声がとても明るく、そんな日のおばあちゃんの声に嬉しさと安堵を覚えた。

「一割負担ありがとう」心の中で叫んだ。

しかし、残りの九割はどうなっているのかと疑問に思い調べてみると、税金と介護保険料半分ずつでまかなわれていることが分かった。

社会全体で支えてもらっていると思うと、感謝の気持ちでいっぱいになる。

だが、気になる新聞記事を見つけた。あと二年後には、介護保険制度の利用者負担を二割にする案が出ていること。負担額を上げなければならぬ理由は、少子高齢化による社会保障費の増大や、高齢者増加による介護保険の財政ひっばくと記載されていた。

少子高齢化は日本における重大な問題です。十年後、私が働く時代には、日本の人口の三分の一が六十五歳となり、約一・八人で一人の高齢者を支えるという予測されている。

おじいちゃんからかかってきた一本の電話で、税のこと、介護のこと、これからの将来について学ばさうなことを知りました。

少しでも社会に役立てるため、今、私にできること。健康でいる。ゴミを減らす。公共施設をきれいに使う。少しの心がけだが、日々意識し、将来に役立てていきたい。

そして、税金を納める立場になったときにも、おじいちゃんとおばあちゃんの間にも、しっかりと納め、社会に貢献できる人になろう。